

第 5 回 油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会資料（案）に対する 井上委員（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授）からの意見概要

1 日時

令和元年 12 月 19 日（木） 15 時 00 分～17 時 00 分

2 場所

豊橋技術科学大学 D 棟 会議室

3 意見概要

(1) 議事次第

(特になし)

(2) フォローアップ委員会に関する設置要綱（資料 1）

(特になし)

(3) フォローアップ委員会の進め方（資料 2）

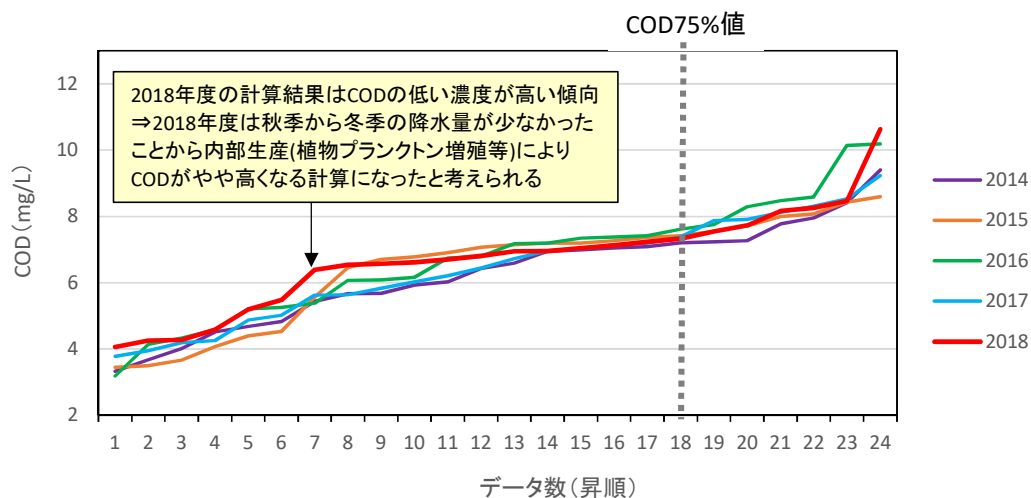
(特になし)

(4) 油ヶ淵のこれまでの対策の効果検証について（資料 3）

< II 水質モデル、にごりモデルの調整と現況計算 >

- ・ p10：2018 年度の計算結果で、COD75%値が 2017 年度と比べて低下しているが、年平均値は上昇している要因を確認すること。

⇒水質モデルの 2014～2018 年度の COD の日計算結果を昇順に並べ替えて比較したところ、2018 年度は COD の濃度の低い値が 2014～2017 年度に比べて全体的に高く、COD75%値は各年度とも同程度の値の計算結果であったことから、2018 年度の計算結果は、COD75%値が 2017 年度に比べて僅かに低下し、年平均値は僅かに高くなったことを確認しました。



(参考図) 水質モデルによる COD 計算結果 (昇順)

- ・ p11：底層 D0 の実測値は、水門を介して湖内に不規則に入ってくる塩分の影響等を受けて低下していると考えられ、それをモデルで再現するのは難しいことから、実測値から塩分等の影響で不規則に低下している D0 データを除いて統計値を計算した方がよい。

⇒ご意見を踏まえて資料を修正しました（資料 3：P11 参照）。

- ・ p14：透視度の計算結果については、モデルに問題はない。

<Ⅲ これまでの対策効果の検討>

- ・ p22, 31：対策効果をみるための負荷量条件や濃度の増減値と、対策の評価結果の整合性を確認する。

⇒p22 と p31 の内容を精査して修正しました（資料 3：P22, 31 参照）。

- ・ p31：対策の評価結果が過大になり過ぎないように注意する。

<Ⅳ 次期対策項目>

- ・ p36：次期対策項目の中で、概要にない項目があるので、整合性がとれるようにすること。

⇒ご意見を踏まえて、これまでの対策の記述を追加し、資料を修正しました（資料 3：P36 参照）。

- ・ p36：下水道整備、農業集落排水、合併処理浄化槽整備の対策は、汚水処理人口普及率等として総合的に取り扱った方がよい。また、合併処理浄化槽整備の対策については、「単独処理浄化槽の減少（単独処理浄化槽人口●人以下）」や「合併処理浄化槽の法定検査率の向上」などの目標に変えていくのがよいのではないかと。

- ・ 次期計画で目標水質や評価方法を見直す場合、底層 D0 は生物生息改善の指標として年間を通して 3mg/L 以下の目標を継続するのはあるが、透視度については降雨時のにごりがあるため、年間を通して（100%）30cm 以上の目標を達成するのは不可能である。そのため、透視度を評価するにあたっては、降雨時を除いて晴天時のみで評価するとか、最小値で評価するなど、透視度の評価方法は見直した方がよい。

⇒次期計画の対策項目や対策の目標値を具体化していく際に検討していきたい。

(5) 高浜川水門の実証試験結果について (資料 4)

- ・ 下流域への影響は大丈夫か。

⇒ 下流域の漁協等の関係機関には説明済みです。

- ・ 降雨時に油ヶ淵に貯留して水位差をつけ、フラッシュさせることで流速も大きくなり、排水効果も大きくなるのではないか。

⇒ 今後、フラッシュ排水による効果を確認する予定です。

- ・ 1回排水より、複数回排水させる方法の方が効果は大きくなるのではないか。

⇒ 今回の実証試験結果を踏まえ、今後、運用方針案を検討していく予定です。

以上